

# 第1部 食肉の流通

## 1 と畜場の状況

(1) 全国のと畜場数は204場で、前年並みであった。

と畜場の種類別と畜場数及び構成割合をみると、前年と同じく食肉卸売市場併設と畜場が27場で13.2%、食肉センターが72場で35.3%、その他が105場で51.5%を占めている。(表1参照)

表1 種類別と畜場数の推移

単位 { と畜場数：場  
比 率：%

区 分		計	食肉卸売市場併設と畜場	食 肉 セ ン タ ー	そ の 他
実 数	平.15	208	27	72	109
	16	204	27	72	105
	17	204	27	72	105
対前年比	平.15	86.7	96.4	90.0	82.6
	16	98.1	100.0	100.0	96.3
	17	100.0	100.0	100.0	100.0
構 成 比	平.15	100.0	13.0	34.6	52.4
	16	100.0	13.2	35.3	51.5
	17	100.0	13.2	35.3	51.5

(2) 豚及び成牛のと畜頭数規模別と畜場数及びと畜頭数をみると、豚を処理したと畜場数は172場、と畜頭数は1,624万3千頭であった。これをと畜頭数規模別にみると、10万頭以上のと畜場数は65場、と畜頭数は1,279万7千頭でそれぞれ37.8%、78.8%を占めている。

また、成牛を処理したと畜場数は159場で、と畜頭数は122万1千頭であった。これをと畜頭数規模別にみると、1万頭以上のと畜場数は42場、と畜頭数は78万7千頭でそれぞれ26.4%、64.4%を占めている。(表2参照)

表2 と畜頭数規模別と畜場数及びと畜頭数の推移

単位 { と畜場数：場  
と畜頭数：千頭  
構 成 比：%

区 分			豚					成 牛				
			計	2万頭未満	2～5	5～10	10万頭以上	計	1,000頭未満	1,000～5,000	5,000～1万	1万頭以上
と畜場数	実数	平.15	175	48	31	32	64	165	41	38	43	43
		16	172	44	32	31	65	162	37	38	42	45
		17	172	47	30	30	65	159	32	39	46	42
と畜場数	構成比	平.15	100.0	27.4	17.7	18.3	36.6	100.0	24.8	23.0	26.1	26.1
		16	100.0	25.6	18.6	18.0	37.8	100.0	22.8	23.5	25.9	27.8
		17	100.0	27.3	17.4	17.4	37.8	100.0	20.1	24.5	28.9	26.4
と畜頭数	実数	平.15	16 396	189	1 070	2 368	12 770	1 202	11	110	306	774
		16	16 596	155	1 072	2 322	13 048	1 256	7	111	300	837
		17	16 243	213	1 046	2 187	12 797	1 221	5	104	325	787
と畜頭数	構成比	平.15	100.0	1.2	6.5	14.4	77.9	100.0	0.9	9.2	25.5	64.4
		16	100.0	0.9	6.5	14.0	78.6	100.0	0.6	8.9	23.9	66.7
		17	100.0	1.3	6.4	13.5	78.8	100.0	0.4	8.6	26.6	64.4

注：1 当該畜種の入場のあったと畜場のみの集計値である。

2 と畜頭数の構成比は、原数より算出している。

## 2 肉豚の概要

### (1) 豚の出荷状況

ア 豚の出荷（と畜）頭数は1,624万3千頭で、米国産牛肉輸入停止措置による代替需要等から出荷（と畜）が増加した前年に比べ35万3千頭（2.1%）減少した。（図1、表3参照）

図1 豚出荷（と畜）頭数の推移

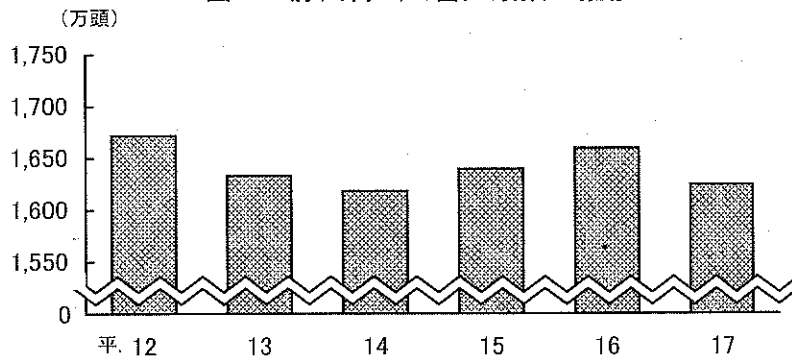


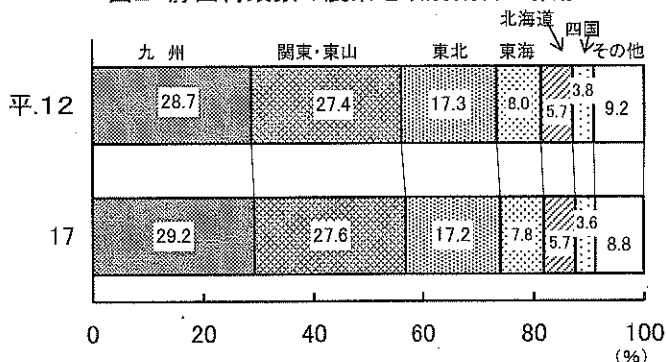
表3 豚出荷（と畜）頭数の推移

年次	単位					
	平. 12	13	14	15	16	17
実数	16 717	16 329	16 183	16 396	16 596	16 243
対前年比	-	99.1	97.7	99.1	101.3	101.2

注：対前年比は、原数より算出している。

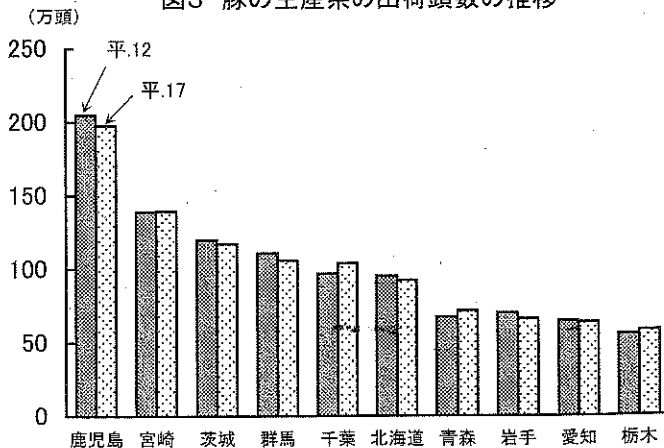
イ 平成17年の豚の出荷頭数を全国農業地域別にみると、鹿児島、宮崎を中心とする九州が29.2%（474万1千頭）を占めて最も高く、次いで、茨城、群馬を中心とする関東・東山が27.6%（448万8千頭）、青森、岩手を中心とする東北が17.2%（280万2千頭）を占めており、この3地域を合わせた割合は、全体の74.1%（1,203万頭）となっている。（図2参照）

図2 豚出荷頭数の農業地域別割合の推移



ウ 主産県の出荷頭数を平成12年と比べてみると、宮崎、千葉、青森、栃木は増加したものの、鹿児島、茨城、群馬、北海道、岩手、愛知は減少している。（図3参照）

図3 豚の主産県の出荷頭数の推移



(2) 食肉卸売市場における豚肉の状況

ア 取引状況

食肉卸売市場(中央卸売市場10、指定市場19)における豚肉の取引成立頭数は218万頭で、前年に比べ4.8%減少した。市場別では、中央卸売市場が90万7千頭で前年に比べ6.3%減少し、指定市場は127万3千頭で前年に比べ3.6%減少した。(表4参照)

全国のと畜頭数に占める食肉卸売市場取引成立頭数の割合は13.4%で、前年に比べ0.4ポイント減少した。(表5参照)

表4 食肉卸売市場の豚肉の取引成立頭数の推移

区分	食肉卸売市場		中央卸売市場	指定市場	
	実数	対前年比			
年次	平. 15	15	2 277	1 000	1 277
	16	16	2 289	968	1 321
	17	17	2 180	907	1 273
対前年比	平. 15	15	99.7	101.5	98.4
	16	16	100.5	96.8	103.4
	17	17	95.2	93.7	96.4

注：対前年比は、原数より算出している。

表5 全国と畜頭数に占める食肉卸売市場取引成立頭数の推移

年次	全国と畜頭数		食肉卸売市場	割合
	頭数	割合		
年次	平. 15	16 396	2 277	13.9
	16	16 596	2 289	13.8
	17	16 243	2 180	13.4

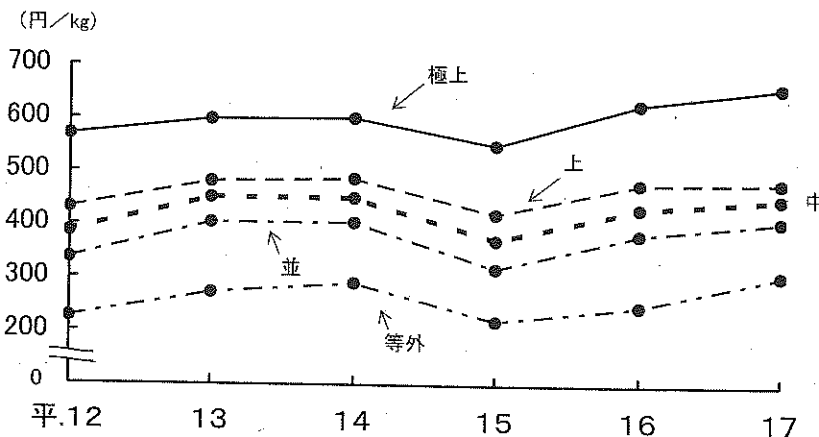
注：割合は、原数より算出している。

イ 卸売価格の動向(1kg当たり平均価格)

食肉中央卸売市場における豚肉の規格別卸売価格は、「極上」が657円、「上」が479円、「中」が449円、「並」が407円、「等外」が306円で、米国産牛肉の代替需要等からそれぞれ前年に比べ31円(5.0%)、2円(0.4%)、18円(4.2%)、25円(6.5%)、58円(23.4%)上昇した。

(図4参照)

図4 豚肉の規格別卸売価格の推移(1kg当たり平均価格)  
(食肉中央卸売市場)



### 3 肉牛の概要

#### (1) 成牛の出荷状況

ア 成牛の出荷(と畜)頭数は122万1千頭で、米国産牛肉輸入停止措置による御売価格の上昇等から前進出荷された前年に比べ3万5千頭(2.8%)減少した。

このうち、和牛は46万3千頭、乳牛は73万9千頭で、前年に比べそれぞれ0.3%、4.4%減少した。

成牛の種類別出荷頭数割合をみると、和牛が37.9%で平成12年に比べ6.6ポイント減少したのに対し、乳牛は60.5%で平成12年に比べ6.1ポイント増加した。また、その他の牛は1.5%で、平成12年に比べ0.3ポイント増加した。(図5、表6参照)

図5 成牛の種類別出荷(と畜)頭数の推移

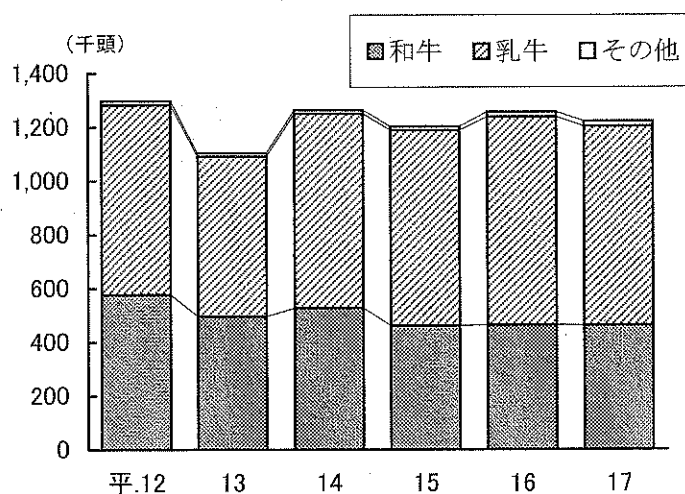


表6 成牛の種類別出荷(と畜)頭数の推移

年次		平.12	13	14	15	16	17
実数	成牛計	1 297	1 103	1 263	1 202	1 256	1 221
	和牛	577	496	527	461	464	463
	乳牛	705	595	722	726	773	739
	その他の牛	15	13	14	14	18	19
対前年比	成牛計	98.1	85.1	114.4	95.2	104.5	97.2
	和牛	98.0	85.9	106.3	87.5	100.6	99.7
	乳牛	99.6	84.3	121.4	100.6	106.5	95.6
	その他の牛	59.3	86.2	106.1	104.2	129.1	102.5
構成比	成牛計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	和牛	44.5	44.9	41.7	38.4	37.0	37.9
	乳牛	54.4	53.9	57.2	60.4	61.6	60.5
	その他の牛	1.2	1.2	1.1	1.2	1.5	1.5

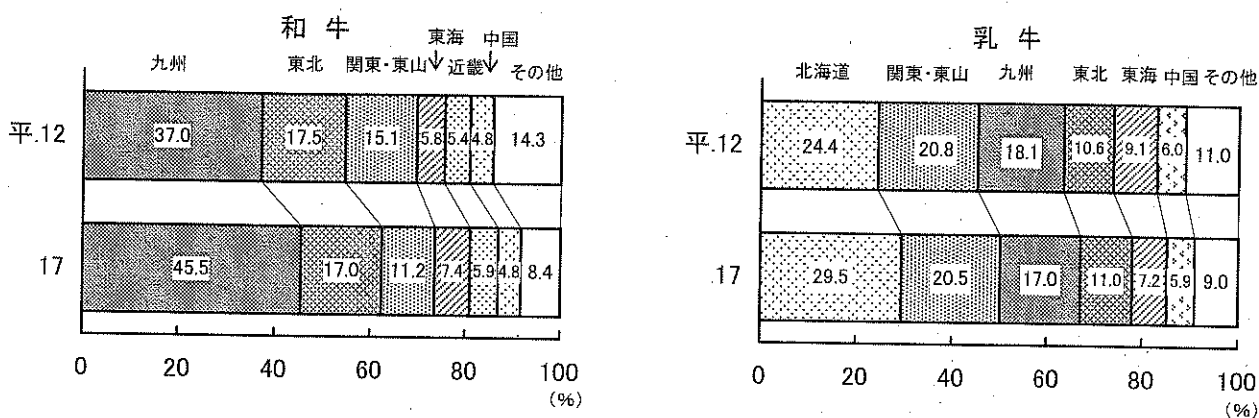
単位 { 実数：千頭  
比率：%

注：対前年比及び構成比は、原数より算出している。

イ 成牛の種類別出荷頭数を全国農業地域別にみると、和牛は、鹿児島、宮崎を中心とする九州が45.5% (21万頭) を占めて最も高く、次いで、宮城、岩手を中心とする東北が17.0% (7万9千頭)、茨城、栃木を中心とする関東・東山が11.2% (5万2千頭) となっており、この3地域を合わせた割合は73.6% (34万1千頭) となっている。

また、乳牛は、北海道が29.5% (21万8千頭) を占めて最も高く、次いで、栃木、群馬を中心とする関東・東山が20.5% (15万2千頭)、熊本、宮崎を中心とする九州が17.0% (12万5千頭) となっており、この3地域を合わせた割合は67.0% (49万5千頭) となった。(図6参照)

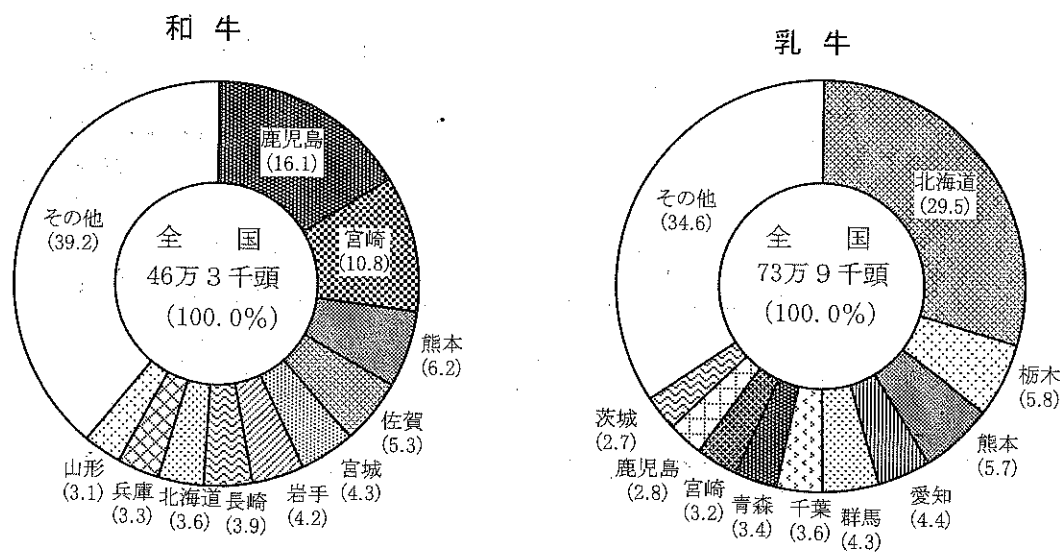
図6 成牛の種類別出荷頭数の農業地域別割合



ウ 都道府県別割合をみると、和牛は、鹿児島が16.1% (7万5千頭) を占めて最も高く、次いで、宮崎が10.8% (5万頭)、熊本が6.2% (2万9千頭)、佐賀が5.3% (2万5千頭) となっている。

また、乳牛は、北海道が29.5% (21万8千頭) を占めて最も高く、次いで、栃木が5.8% (4万3千頭)、熊本が5.7% (4万2千頭)、愛知が4.4% (3万2千頭) となっている。(図7参照)

図7 成牛の種類別出荷頭数の都道府県別割合



(2) 食肉卸売市場における牛肉の状況

ア 取引状況

食肉卸売市場（中央卸売市場10、指定市場19）における成牛の取引成立頭数は42万4千頭で、前年に比べ6.2%減少した。市場別では、中央卸売市場は31万3千頭、指定市場は11万1千頭で、それぞれ前年に比べ6.5%、5.1%減少した。

畜種別では、和牛は19万3千頭、乳牛は22万6千頭で、それぞれ前年に比べ1.8%、10.3%減少した。（表7参照）

全国のと畜頭数に占める食肉卸売市場取引成立頭数の割合は34.7%で、前年に比べ1.3ポイント減少した。（表8参照）

表7 食肉卸売市場の牛肉の取引成立頭数の推移

区 分	食肉卸売市場	中央卸売市場	指定市場	畜 種 別			
				和牛	乳牛	その他の牛	
				単位 { 成立頭数：千頭 比 率：%			
実 数	平. 15	429	317	111	192	236	1
	16	452	335	117	197	252	3
	17	424	313	111	193	226	5
対前年比	平. 15	89.2	92.6	80.7	84.7	93.0	300.3
	16	105.4	105.6	105.0	102.5	106.9	304.9
	17	93.8	93.5	94.9	98.2	89.7	150.1

注：対前年比は、原数より算出している。

表8 全国と畜頭数に占める食肉卸売市場取引成立頭数の推移

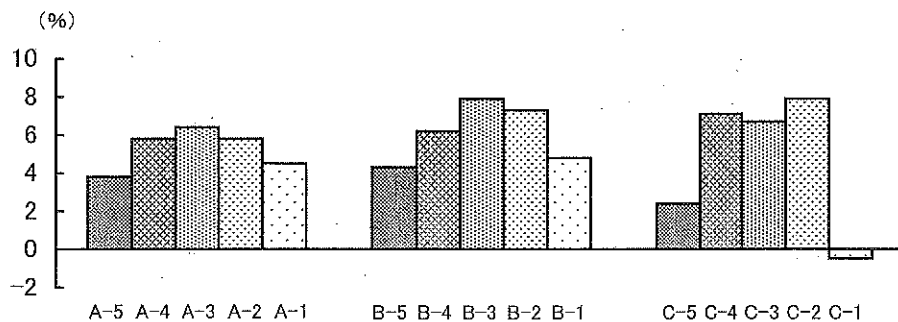
年 次	全国と畜頭数	食肉卸売市場	
		食肉卸売市場	割 合
平. 15	1 202	429	35.7
16	1 256	452	36.0
17	1 221	424	34.7

注：割合は、原数より算出している。

イ 卸売価格の動向

食肉卸売市場における牛肉の規格別卸売価格を対前年騰落率で見ると、米国産牛肉の輸入停止措置の影響等により、C-1を除くすべての規格において上昇している。（図8参照）

図8 成牛の規格別取引価格の対前年騰落率



## 第2部 鶏卵の流通

### 1 鶏卵生産量

鶏卵生産量は、採卵鶏のえ付け羽数が減少していること等から248万1千tで前年に比べ0.4%減少した。

都道府県別にみると、茨城が6.9%（17万2千t）を占めて最も高く、次いで、鹿児島が6.6%（16万3千t）、千葉が6.4%（16万t）、愛知が5.4%（13万4千t）となっている。（表9、図9参照）

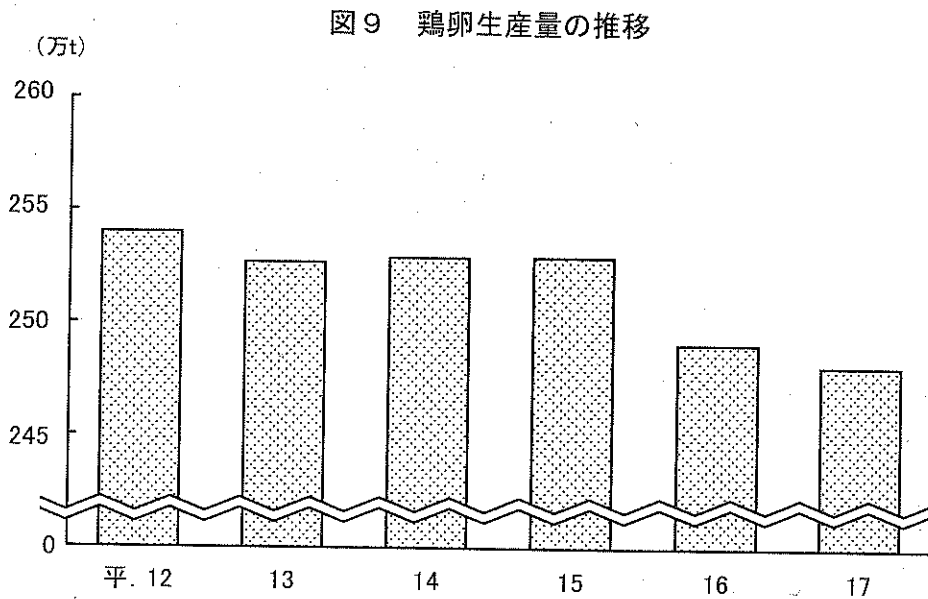


表9 鶏卵生産量(全国及び上位10都道府県)

単位 { 生産量: 千t  
比率: %

区 分	生 産 量		対前年比	平. 17 構成比
	平. 17	16		
全 国	2 481	2 491	99.6	100.0
茨 城	172	175	98.6	6.9
鹿 児 島	163	164	99.5	6.6
千 葉	160	159	100.2	6.4
愛 知	134	129	103.7	5.4
広 島	114	111	102.6	4.6
北 海 道	106	103	103.0	4.3
岡 山	105	99	105.7	4.2
新 潟	90	83	107.8	3.6
青 森	87	88	99.0	3.5
岐 阜	82	74	110.7	3.3
そ の 他	1 268	1 305	97.2	51.1

注： 1)ラウンドにより計と内訳が一致しないことがある。  
2)対前年比及び構成比は、原数より算出している。

## 2 鶏卵の出荷状況

鶏卵出荷量は、240万2千tで、前年に比べ0.4%減少した。

これを全国農業地域別にみると、千葉、茨城を中心とする関東・東山が最も多く、出荷量の24.0%（57万6千t）を占めている。次いで、鹿児島、福岡を中心とする九州が15.5%（37万3千t）、愛知、岐阜を中心とする東海が14.0%（33万6千t）、青森、宮城を中心とする東北が13.4%（32万1千t）となっている。（表10参照）

表10 鶏卵の全国農業地域別出荷量

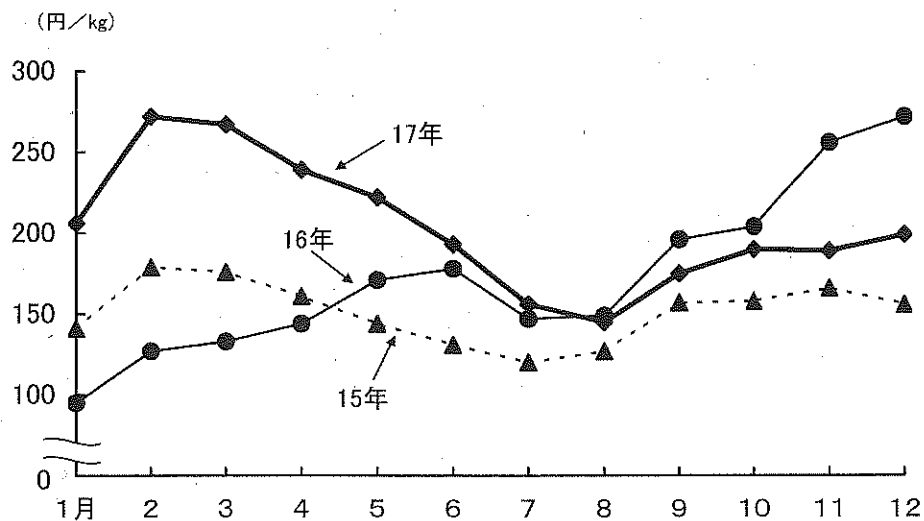
区 分	出 荷 量		対前年比	平. 17 構成比
	平. 17	16		
全 国	2 402	2 412	99.6	100.0
北 海 道	105	102	103.0	4.4
東 北	321	321	99.9	13.4
北 陸	138	134	102.5	5.7
関 東・東 山	576	581	99.0	24.0
東 海	336	323	104.1	14.0
近 畿	117	132	89.0	4.9
中 国	283	276	102.5	11.8
四 国	129	136	95.0	5.4
九 州	373	385	96.7	15.5
沖 縄	25	22	112.6	1.0

単位 { 生産量：千t  
比率：%

注：対前年比及び構成比は、原数より算出している。

(参考) 卸売価格（鶏卵市況情報）

図10 鶏卵卸売価格の推移  
（東京全農系、M規格、中値）





### 第3部 食鳥の流通

#### 1 食鳥の処理量

食鳥処理羽数はブロイラーのえ付け羽数が増加していること等から7億710万羽で前年に比べ2.9%増加し、処理重量は189万558tで2.7%増加した。

また、処理羽数は10年ぶりに7億羽を超えた。(表11参照)

表11 全国の食鳥処理量・製品生産量(平成17年)

区分	処理量(生体)				製品生産量						
	実数		対前年比(%)		実数			対前年比(%)			
	羽数	重量	羽数	重量	計	と体・ 中ぬき	解体品	計	と体・ 中ぬき	解体品	
計	707 101	1 890 558	102.9	102.7	1 101 124	96 607	1 004 517	101.2	100.4	101.3	
ブロイラー	606 898	1 702 001	102.9	102.7	1 005 327	63 139	942 188	101.3	99.8	101.4	
その他の肉用鶏	8 546	25 722	101.9	100.8	15 024	4 277	10 747	101.5	97.4	103.2	
廃 鶏	88 938	157 305	103.2	102.7	78 052	28 480	49 572	100.1	102.2	99.0	
その他の食鳥	2 719	5 530	102.2	108.3	2 721	711	2 010	106.8	103.9	107.9	

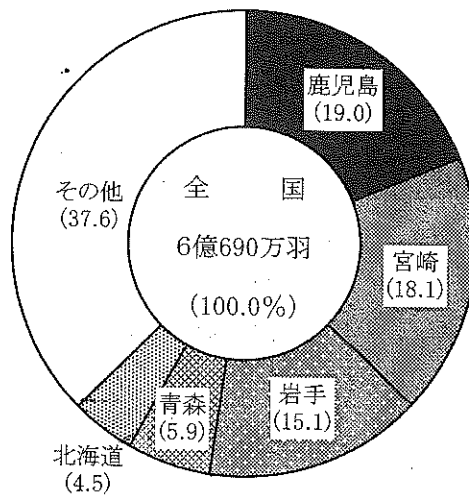
単位 { 羽数:千羽  
重量:t

#### (1) ブロイラー

ア 処理羽数は6億690万羽で前年に比べ2.9%増加し、処理重量は170万2,001tで前年に比べ2.7%増加した。(表11参照)

イ 都道府県別の出荷羽数をみると、鹿児島が19.0%(1億1,525万羽)と最も多く、次いで宮崎が18.1%(1億958万羽)、岩手が15.1%(9,135万羽)の順となっており、この3県で全国の約5割を占めている。(図11参照)

図11 ブロイラーの都道府県別出荷羽数割合

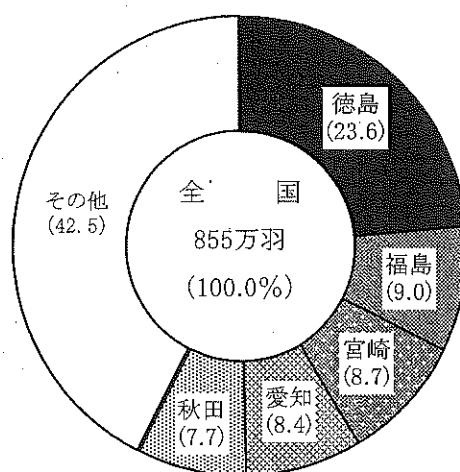


## (2) その他の肉用鶏

肉用鶏のうち、ふ化後3か月以上の鶏（「食鶏取引規格」の定義における「肥育鶏」、  
「親めす」及び「親おす」をいう。）の処理羽数は855万羽で前年に比べ1.9%増加し、処理  
重量は2万5,722 tで前年に比べ0.8%増加した。（表11参照）

都道府県別の出荷羽数をみると、徳島が23.6%（202万羽）と最も多く、次いで福島が  
9.0%（77万羽）、宮崎が8.7%（75万羽）、愛知が8.4%（72万羽）、秋田が7.7%（66万  
羽）の順となっており、この5県で全国の約6割を占めている。（図12参照）

図12 その他の肉用鶏の都道府県別出荷羽数割合



## (3) 廃鶏

処理羽数は8,894万羽で前年に比べ3.2%増加し、処理重量は15万7,305 tで前年に比べ  
2.7%増加した。（表11参照）

## (4) その他の食鳥

あいがも、うずらなどの鶏以外の処理羽数は272万羽で前年に比べ2.2%増加し、処理重量  
は5,530 tで前年に比べ8.3%増加した。（表11参照）

## 2 製品生産量(と体・中ぬき及び解体品)

食鳥処理場における食鳥の製品生産量(と体・中ぬき及び解体品)は110万1,124 tで、前年に  
比べ1.2%増加した。

このうち、大部分を占めるブロイラーについてみると、製品生産量は100万5,327 tで前年に  
比べ1.3%増加した。これを処理別にみると、と体・中ぬきは6万3,139 tで前年に比べ0.2%減  
少し、解体品は94万2,188 tで前年に比べ1.4%増加した。（表11参照）

### 3 ブロイラーの飼養（出荷）戸数・羽数（平成18年2月1日現在）

- (1) 平成18年2月1日現在のブロイラー飼養戸数は2,590戸で前年に比べ2.3%減少したが、飼養羽数は1億416万羽で前年に比べ1.6%増加した。この結果、1戸当たり飼養羽数は4万羽で前年に比べ3.9%増加した。（表12参照）

表12 ブロイラーの飼養戸数・羽数及び1戸当たりの飼養羽数  
（平成18年2月1日現在・全国）

区 分	飼養戸数	飼養羽数	1戸当たり飼養羽数
	戸	千羽	千羽
平 . 17	2 652	102 520	39
18	2 590	104 164	40
対前年比 (%)	97.7	101.6	103.9

- (2) 年間出荷戸数は3,120戸で前年に比べ3.7%減少し、年間出荷羽数は6億690万羽で前年に比べ2.9%増加した。

これを年間出荷羽数規模別にみると、50万羽以上の階層は、戸数では5.4%の割合であるが、出荷羽数では32.2%を占めている。

なお、1戸当たり出荷羽数は19万5千羽で、前年に比べ7.1%増加した。（表13参照）

表13 ブロイラーの年間出荷羽数規模別出荷戸数・出荷羽数の推移

単位 { 戸数 : 戸  
羽数 : 千羽  
比 率 : %

区 分		計	5万羽未満	5～10	10～20	20～30	30～50	50万羽以上
出 荷 戸 数	平 . 16	3 240	777	614	1 052	410	230	157
	17	3 120	673	572	1 049	404	252	170
	対前年比	96.3	86.6	93.2	99.7	98.5	109.6	108.3
構 成 比	平. 16	100.0	24.0	19.0	32.5	12.7	7.1	4.8
	17	100.0	21.6	18.3	33.6	12.9	8.1	5.4
出 荷 羽 数	平 . 16	589 957	20 155	44 810	153 404	101 967	90 325	179 296
	17	606 898	16 973	42 245	155 260	100 182	96 709	195 529
	対前年比	102.9	84.2	94.3	101.2	98.2	107.1	109.1
構 成 比	平. 16	100.0	3.4	7.6	26.0	17.3	15.3	30.4
	17	100.0	2.8	7.0	25.6	16.5	15.9	32.2
1 戸 当 た り 出 荷 羽 数	平 . 16	182	26	73	146	249	393	1 142
	17	195	25	74	148	248	384	1 150
	対前年比	107.1	96.2	101.4	101.4	99.6	97.7	100.7

#### 4 食鳥処理場数

食鳥を処理した全国の食鳥処理場数は643場で、前年に比べ1.1%減少した。

これを食鳥の種類別にみると、その他の肉用鶏は186処理場、その他の食鳥は96処理場で前年に比べそれぞれ8.8%、4.3%増加した。一方、ブロイラーは188処理場、廃鶏は321処理場で前年に比べそれぞれ1.6%、3.0%減少した。

また、1処理場当たりの処理重量は2,940 tで前年に比べ3.9%増加した。(表14参照)

表14 食鳥処理場数及び1処理場当たり処理重量(全国)

区分	1) 食鳥処理場	食鳥の種類別処理場				単位 { 処理場 処理重量:t
		ブロイラー	その他の肉用鶏	廃鶏	その他の食鳥	
処理場数						
平.16	650	191	171	331	92	
17	643	188	186	321	96	
対前年比(%)	98.9	98.4	108.8	97.0	104.3	
1処理場当たりの処理重量						
平.16	2 831	8 673	149	463	55	
17	2 940	9 053	138	490	58	
対前年比(%)	103.9	104.4	92.6	105.8	105.5	

注:1)は食鳥を処理した実処理場数であり、1処理場で複数の処理を行っている場合があることから、食鳥の種類別処理場の計とは一致しない。

(参考) 卸売価格(食鳥市況情報)

図13 ブロイラー卸売価格(東京、中値、もも)の推移

